

●青島周回コース

①湖山池情報プラザ



湖山池の四季の魅力を発信する拠点施設。その自然をいかし各種体験が楽しめます。湖山池の情報・文化の発信と湖山池学習の場所として親しまれています。
(問)0857-31-2900/10~16時/水曜休館
http://blog.goo.ne.jp/koyamaike_jp

②青島展望台



青島は、湖山池で最も大きな島です。橋が架けられる以前は、舟で行き来をし、畑として活用されていました。その山頂にある展望台からは、湖山砂丘と日本海を望むことができ、湖山池がかつて内湾で砂州が発達して潟湖となったことを想像させます。

③藤島



湖山池には、かつて、青島、津生島、団子島、猫島、鳥ヶ島、飯島、藤島の7つの島があったと言われました。飯島は布勢の陸地となり、藤島は青島とつながって、現在は5つの島となっています。

④石がまの跡



石がまは湖底にフナの通路を確保して積み上げた石積みです。この石がまを使って行われる漁が石がま漁で、湖山池西岸の三津地域に伝わっています。多いときは80基近くあった石がまは、現在使用できるものは4基のみです。(※ジオコラム2参照)

おすすめ:猫島



猫島には、琵琶湖の竹生島の弁天宮を分社してまつてあります。湖山長者の飼っていた猫にまつわる伝説『湖山の猫薬師』と『猫島異聞』が伝わっています。

●布勢歴史コース

①ふれあい広場



芝生広場やゲートボール場が整備され、周囲には47都道府県の木が植えられています。樹木学習コースが設定され、クイズをとおして都道府県の木について学習することができます。

②日吉神社



卯山の山腹にある神社で、山名時氏が因幡の守護職の時(1354年)に近江(滋賀県)の坂本から日吉神社を勧請してまつたのが始まりとされています。現在も布勢の山王さんとして親しまれており、境内には子どもの守り神として、猿がまつられています。

③布勢古墳



日吉神社の裏の丘陵にある前方後円墳(全長59m)です。土師器や須恵器片、円筒埴輪片が出土したことから、古墳時代後期に築造された因幡地方の有力首長の墓と考えられています。規模も大きく、墳丘の保存状態も良好であることから、昭和49年(1974)に国の史跡に指定されました。

④布勢天神山城跡



1466年に、因幡の山名勝豊が守護所として築いたとされています。久松山に本拠を移すまでの約100年間、因幡の政治の中心でした。江戸時代の古地図には、湖山川から水を引いた堀が張り巡らされていた様子が描かれています。

湖山長者伝説

池にまつわる伝説は多く残されていますが、その中で最も有名な伝説が「湖山長者」の伝説です。

「むかし、この辺りに裕福な長者が住んでおり、「湖山長者」と呼ばれていた。長者の屋敷では、1日で田植えを終える慣わしであった。ある年、田植えをするために早乙女(さおとめ)を集めて植えさせたところ、猿に気を取られて1日で植えることができなかつた。長者は残念に思い、黄金の扇子をもって西の山に沈もうとしている太陽をさし招いた。すると、沈みかけていた太陽は戻り田植えを終えることができた。次の日、長者が田んぼを見てみると、大きな池になっていた。」

ジオコラム①

湖山池の形成

湖山池は、砂丘が発達して内湾が日本海と切り離されてできた潟湖です。約20万年～15万年前は、鳥取平野は小島が点在する内湾(古鳥取湾)でした。15万年～10万年前には、内湾に砂礫が堆積し古砂丘が形成されました。

その後、地球の寒冷化により海面が低下し、海岸線がはるか沖に後退しますが、約6千年前の縄文時代には地球が温暖化して海水面が上昇し、再び内湾になりました。この内湾は引き続き堆積によって湖山池付近を残して干上がり鳥取平野が形成されました。湖山池は中世頃までは日本海とつながっていましたが、湖山砂丘の成長でつながりが絶たれ現在のような姿になりました。



■:水域 ■:山地 ■:河川および平野

ジオコラム②

石がま漁

湖山池では、全国でも例を見ない「石がま漁」というめずらしい漁法が伝わっています。「石がま」とは湖底にフナの通路を確保して積み上げた石積みです。石がま漁は1月末ごろに1日かけて行われる冬の漁で、石がまの上から突き棒で隙間を突き、胴函という捕獲装置にフナを追い込んでいきます。

この漁は、江戸時代に農民の副業として行われたといわれています。この石がまは、多いときは80基近くありましたが、現存している石がまは、湖山池西岸の三津地区にある4基だけです。



石がま漁の様子

クイズの答え

①:子持勾玉(こもちまがたま) ②:猿